

## 2 運転事故に関する事項

### 2.1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

- ・運転事故の件数<sup>1</sup> は、長期的には減少傾向にあり、平成29年度から600件台で推移していましたが、令和3年度は542件(対前年度比59件増)でした。
- ・令和3年度に発生した運転事故による死傷者数<sup>2</sup> は、465人(対前年度比49人増)でした。運転事故による死傷者数は運転事故件数と同様、長期的には減少傾向にありますが、JR西日本福知山線列車脱線事故が発生した平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故が発生した年度では死傷者数が多くなっています。
- ・なお、令和3年度に発生した運転事故による死亡者数は、262人(対前年度比26人増)でした。

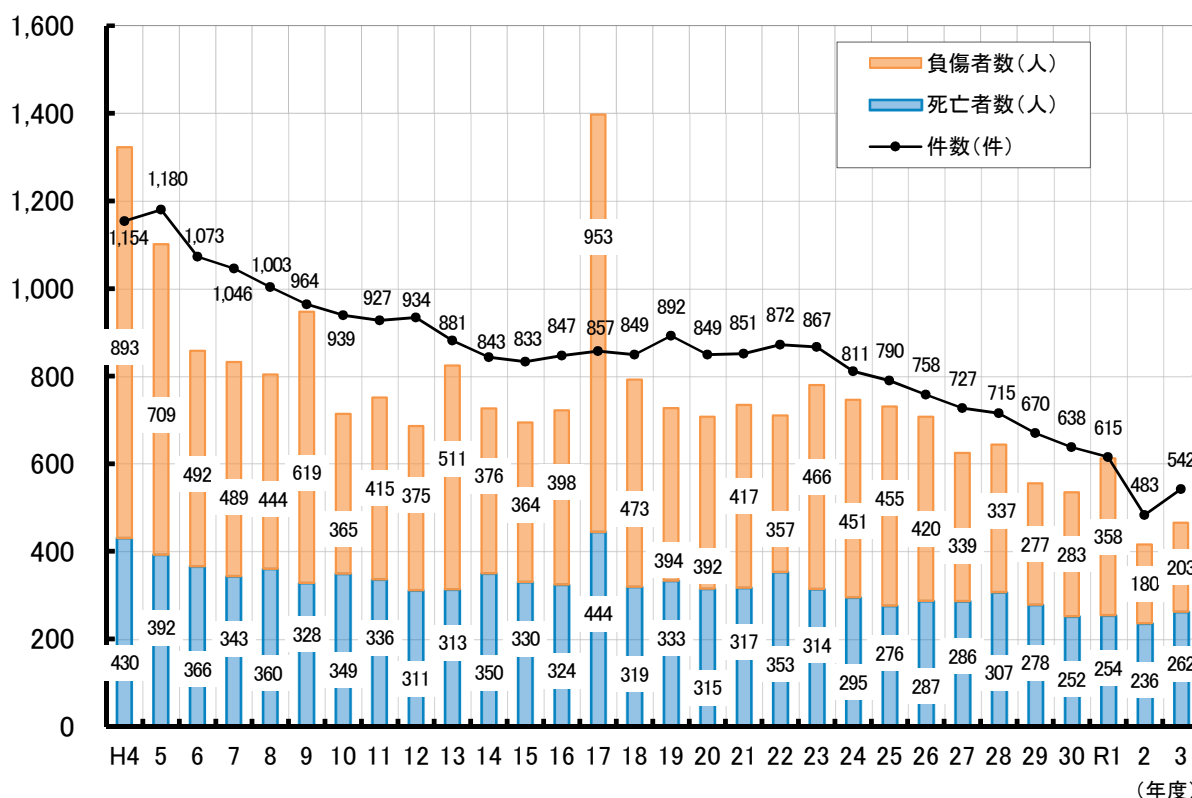


図5： 運転事故の件数及び死傷者数の推移

<sup>1</sup> 踏切障害事故、道路障害事故及び人身障害事故にあつては、自殺によるものは、運転事故として扱わないこととしています(自殺と断定できないものについては、運転事故としている)。

<sup>2</sup> 自殺の行為に直接的に巻き込まれたことにより第三者が死傷した場合についても、同様に死傷者数には含めないこととしています。

## (2) 列車走行百万キロ当たりの運転事故の件数の推移

- ・列車走行百万キロ当たりの運転事故の件数は、運転事故の件数と同様に長期的には減少傾向にあり、平成25年度から平成29年度までは0.5件台で推移していましたが、令和3年度は0.42件でした。

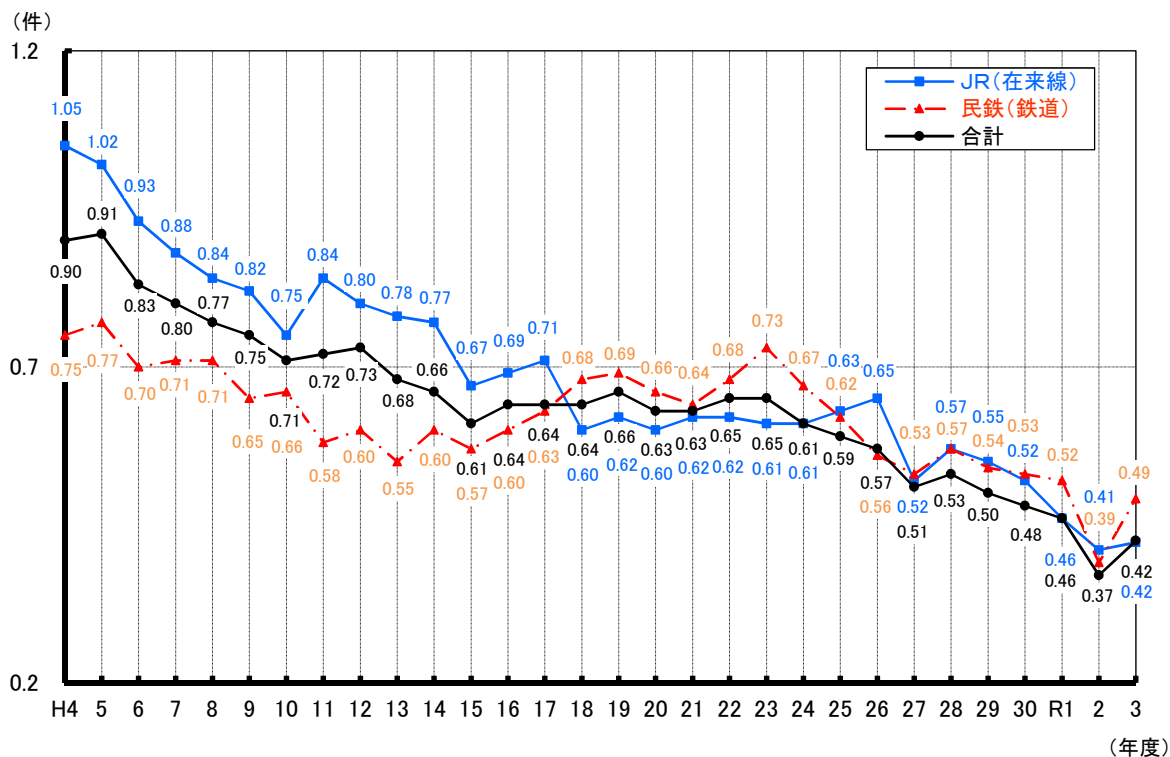


図6：列車走行百万キロ当たりの運転事故の件数

※ グラフ中の「合計」は、JR(在来線+新幹線)と民鉄等(鉄道+軌道)の合計

### (3) 運転事故の種類別の件数及び死傷者数

- ・令和3年度に発生した運転事故の件数は、(1)に記述したとおり542件であり、その内訳は、線路内やホーム上での列車との接触などの人身障害事故が276件(運転事故に占める割合50.9%、対前年度比7件減)、踏切道における列車と自動車との衝突などの踏切障害事故が217件(同40.0%、同52件増)、路面電車と自動車等が道路上で接触するなどの道路障害事故が33件(同6.1%、同8件増)、列車事故は11件(同2.0%、同2件増)、物損事故は5件(同0.9%、同4件増)でした。
- ・令和3年度に発生した運転事故のうち、身体障害者が関わる事故の件数は8件(対前年度比4件増)であり、人身障害事故が6件、踏切障害事故が2件(視覚障害者が4件、下肢障害者が2件、聴覚障害者が2件関わる事故)でした。
- ・新幹線に関わる運転事故は4件(対前年度比4件増)であり、列車脱線事故が1件、人との接触などの人身障害事故が3件でした。
- ・令和3年度に発生した運転事故による死傷者数は、(1)に記述したとおり465人であり、その内訳は、人身障害事故によるものが278人(運転事故に占める割合59.8%、対前年度比7人減)、踏切障害事故によるものが157人(同33.8%、同40人増)、道路障害事故によるものが15人(同3.2%、同7人増)、列車事故によるものが15人(同3.2%、同9人増)でした。
- ・なお、令和3年度に発生した運転事故による死亡者数は、(1)に記述したとおり262人であり、その内訳は、人身障害事故によるものが166人(運転事故に占める割合63.4%、対前年度比5人増)、踏切障害事故によるものが96人(同36.6%、同22人増)、道路障害事故によるものが0人(同0%、同1人減)、列車事故によるものが0人(同0%、同増減無し)でした。

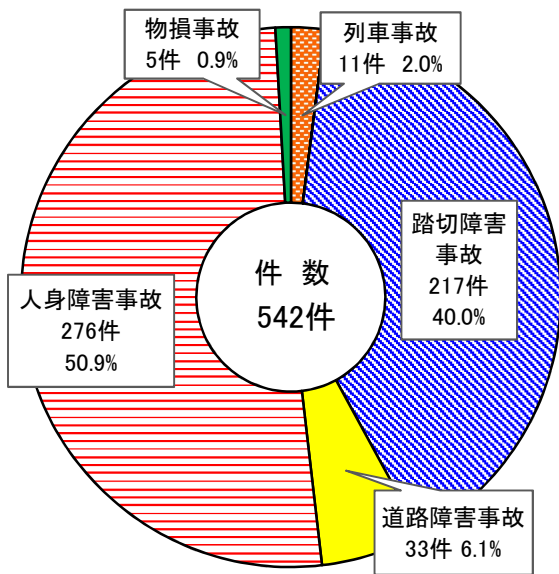
表2：運転事故の件数及び死傷者数(令和3年度)

	件 数 (対前年度)	死傷者数 <sup>※3</sup> (対前年度)	うち死亡者数 (対前年度)	
列車事故	11件 (+ 2件)	15人 (+ 9人)	0人	(± 0人)
うち列車衝突事故	0件 (△ 3件)	0人 (△ 4人)	0人	(± 0人)
うち列車脱線事故	11件 (+ 5件)	15人 (+ 13人)	0人	(± 0人)
うち列車火災事故	0件 (± 0件)	0人 (± 0人)	0人	(± 0人)
踏切事故 <sup>※1</sup>	217件 (+ 52件)	157人 (+ 40人)	96人	(+ 22人)
うち踏切障害に伴う <sup>※2</sup> 列車事故	0件 (± 0件)	0人 (± 0人)	0人	(± 0人)
うち踏切障害事故	217件 (+ 52件)	157人 (+ 40人)	96人	(+ 22人)
道路障害事故	33件 (+ 8件)	15人 (+ 7人)	0人	(△ 1人)
人身障害事故	276件 (△ 7件)	278人 (△ 7人)	166人	(+ 5人)
うち線路内立入り等による 列車との接触	194件 (+ 13件)	194人 (+ 11人)	148人	(+ 5人)
うちホームでの 列車との接触	74件 (△ 24件)	76人 (△ 22人)	14人	(△ 3人)
物損事故	5件 (+ 4件)			
合 計	542件 (+ 59件)	465人 (+ 49人)	262人	(+ 26人)

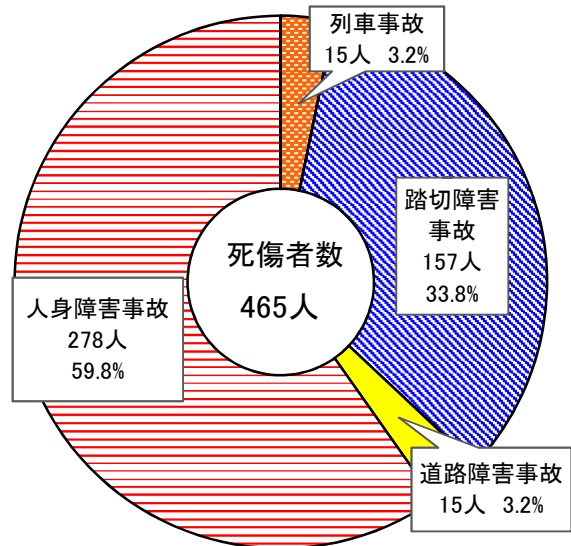
※1 「踏切事故」とは、踏切障害に伴う列車事故及び踏切障害事故をいいます。

※2 「踏切障害に伴う列車事故」の件数等は、踏切事故の内数であり、列車事故にも重複して計上されています。合計の件数等は、この重複を除いたものです。

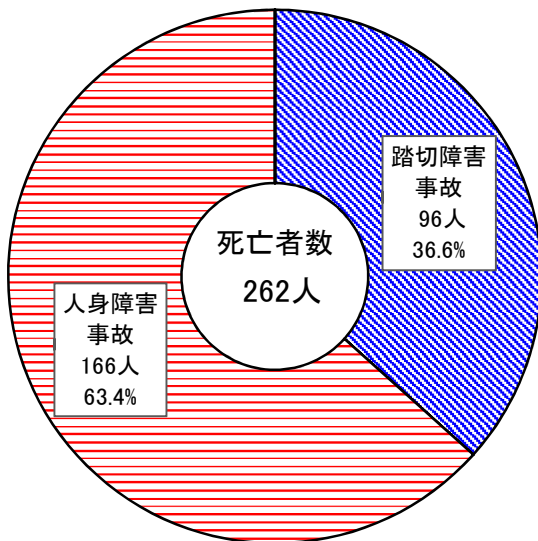
※3 踏切障害事故、道路障害事故及び人身障害事故にあつては、自殺によるものは、運転事故として扱わないこととしています(自殺と断定できないものについては、運転事故としています)。また、列車事故にあつては、自殺によるものも運転事故として扱いますが、死傷者数には自殺によるものは含めないこととしています。なお、自殺の行為に直接的に巻き込まれたことにより第三者が死傷した場合についても、同様に死傷者数には含めないこととしています。



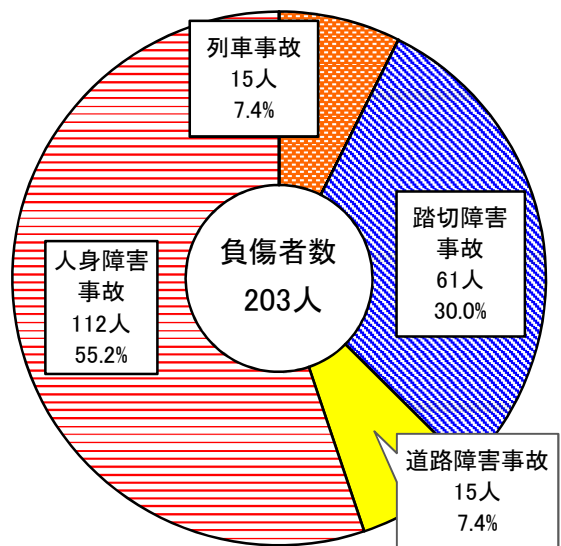
① 運転事故件数



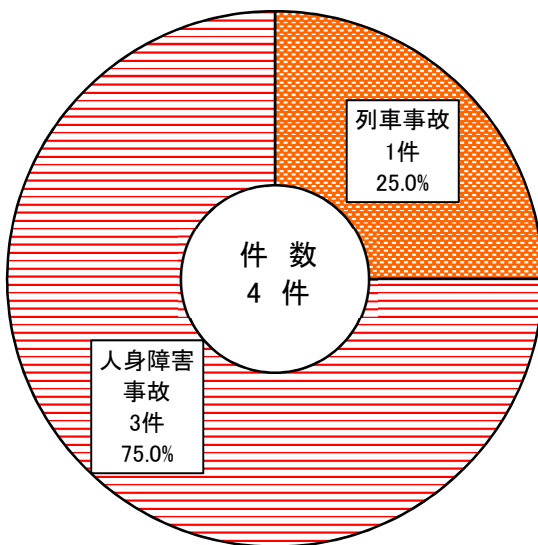
② 死傷者数



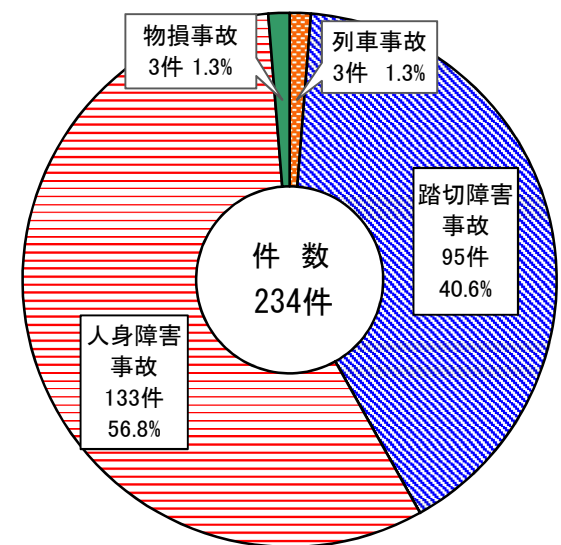
③ 死亡者数



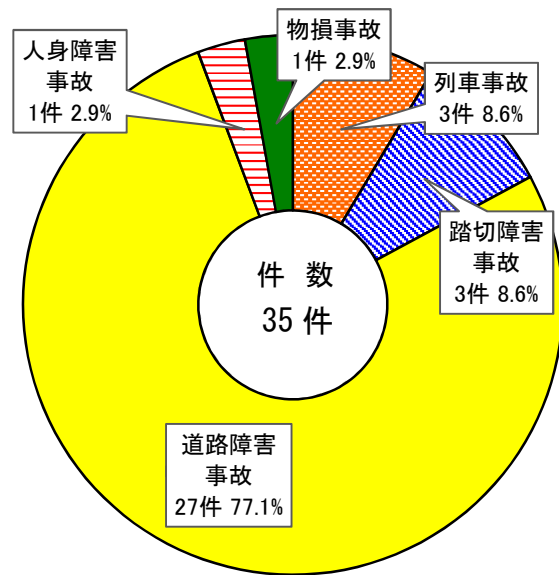
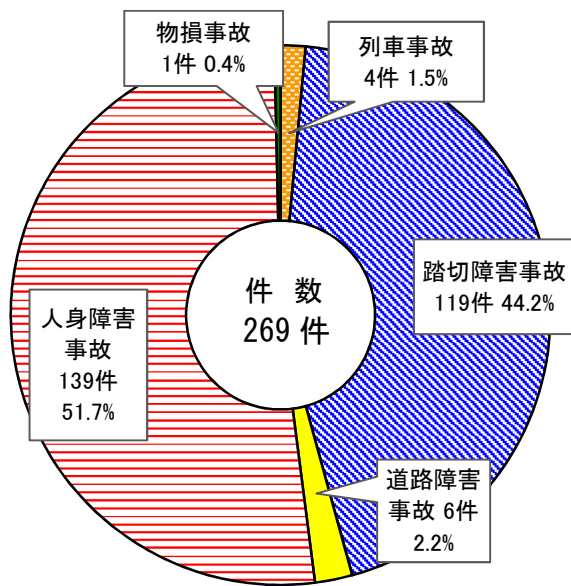
④ 負傷者数



⑤ JR(新幹線)の運転事故件数



⑥ JR(在来線)の運転事故件数



⑦ 民鉄等(軌道以外)の運転事故件数

⑧ 民鉄等(軌道)の運転事故件数

図7： 運転事故の種類別の件数及び死傷者数(令和3年度)

(4) 令和3年度において5人以上の死傷者又は乗客、乗務員に死亡者が発生した事故

表3：主な事故の発生状況(令和3年度)

年月日	事業者	場 所	事故種類	死亡	負傷	脱線両数	概 要
R3.10.7	東京都	日暮里・舎人ライナー舎人公園駅構内	列車脱線	0	8	1	震度5弱の地震により列車が脱線。 これにより、列車乗客8名が負傷した。
R4.2.8	札幌市交通事業振興公社	山鼻線山鼻9条停留場～中島公園通停留場間	道路障害	0	5	0	並走していた自動車がスリップし、車両と衝突した。 これにより、車両乗客5名が負傷した。
R4.3.16	JR 東日本	東北新幹線 福島駅～白石蔵王駅間	列車脱線	0	6	16	震度6強の地震により列車が脱線。 これにより、列車乗客6名が負傷した。

## 2. 2 列車事故の発生状況

- ・令和3年度に発生した列車事故の件数は、運転事故全体の2.0%に当たる11件(対前年度比2件増)であり、その内訳は列車衝突事故が0件(列車事故に占める割合0%、対前年度比3件減)、列車脱線事故が11件(同100%、同5件増)、列車火災事故が0件(同0%、同増減無し)でした。
- ・令和3年度に発生した列車事故による死傷者数は15人(運転事故に占める割合3.2%、対前年度比9人増)であり、その内訳は列車衝突事故によるものが0人(列車事故に占める割合0%、対前年度比4人減)、列車脱線事故によるものが15人(同100%、同13人増)、列車火災事故によるものは0人(同0%、同増減無し)でした。
- ・なお、令和3年度に発生した列車事故による死亡者数は0人(運転事故に占める割合0%、対前年度比増減無し)でした。

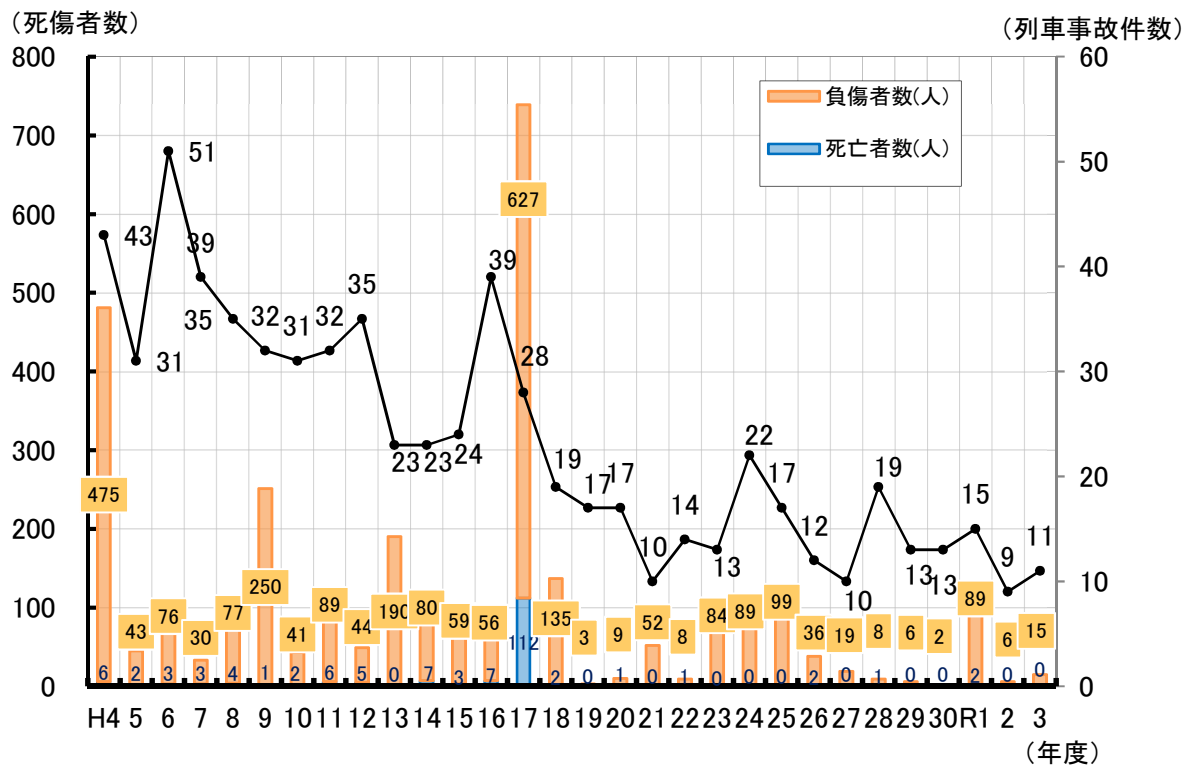


図8：列車事故の件数及び死傷者数の推移

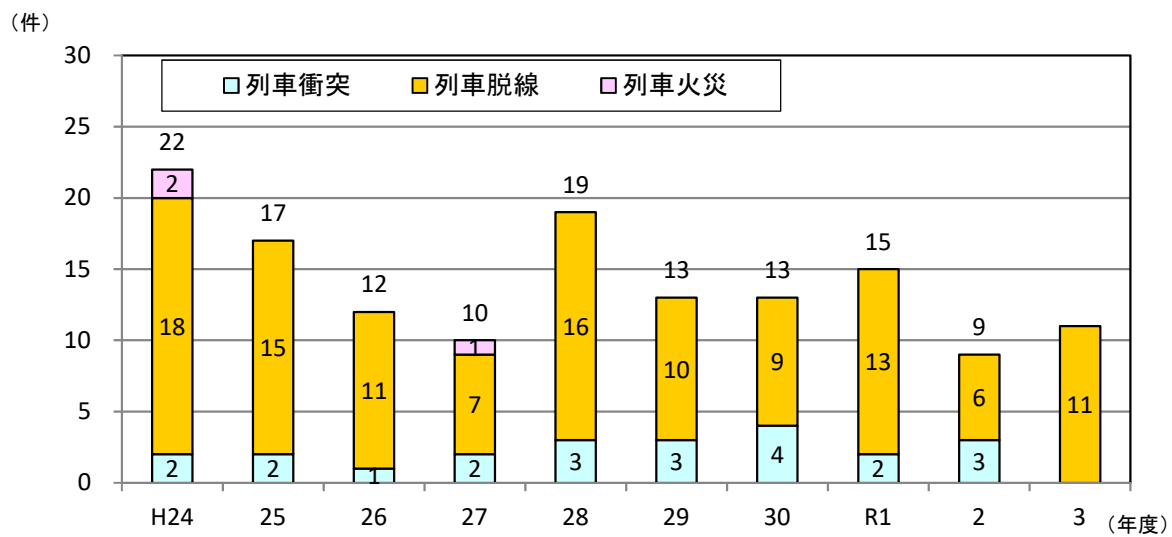


図9：列車事故の件数の内訳(過去10年間)



## 2.3 踏切事故の発生状況

### (1) 踏切事故の件数及び死傷者数の推移等

- ・踏切事故の件数は、長期的に減少傾向ですが、令和3年度は、運転事故全体の40.0%に当たる217件(対前年度比52件増)でした。
- ・令和3年度に発生した踏切事故のうち、身体障害者が関わる事故の件数は2件(踏切事故に占める割合0.9%、対前年度比1件増)であり、第1種踏切道における視覚障害者が関わる事故は1件、聴覚障害者が関わる事故は1件でした。
- ・令和3年度に発生した踏切事故による死傷者数は157人(運転事故に占める割合33.8%、対前年度比40人増)であり、うち死亡者数は96人(同36.6%、同22人増)でした。

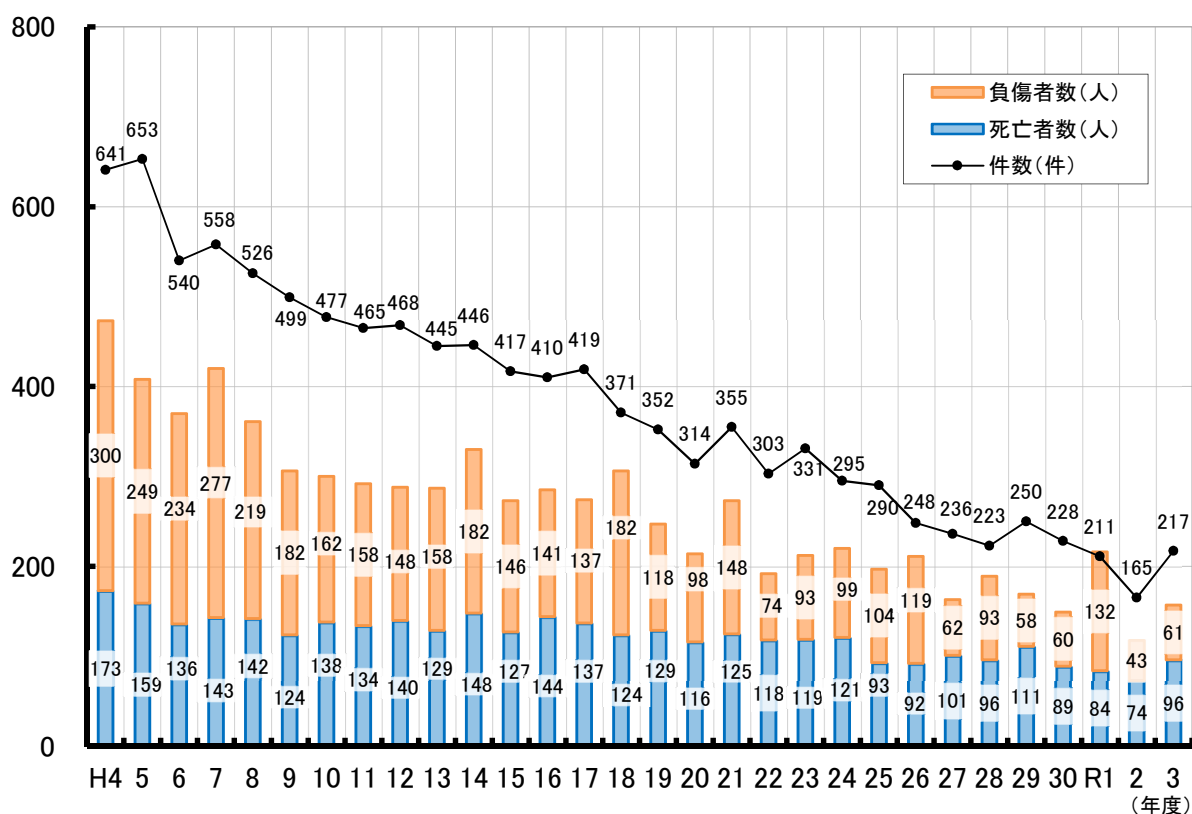


図10: 踏切事故の件数及び死傷者数の推移

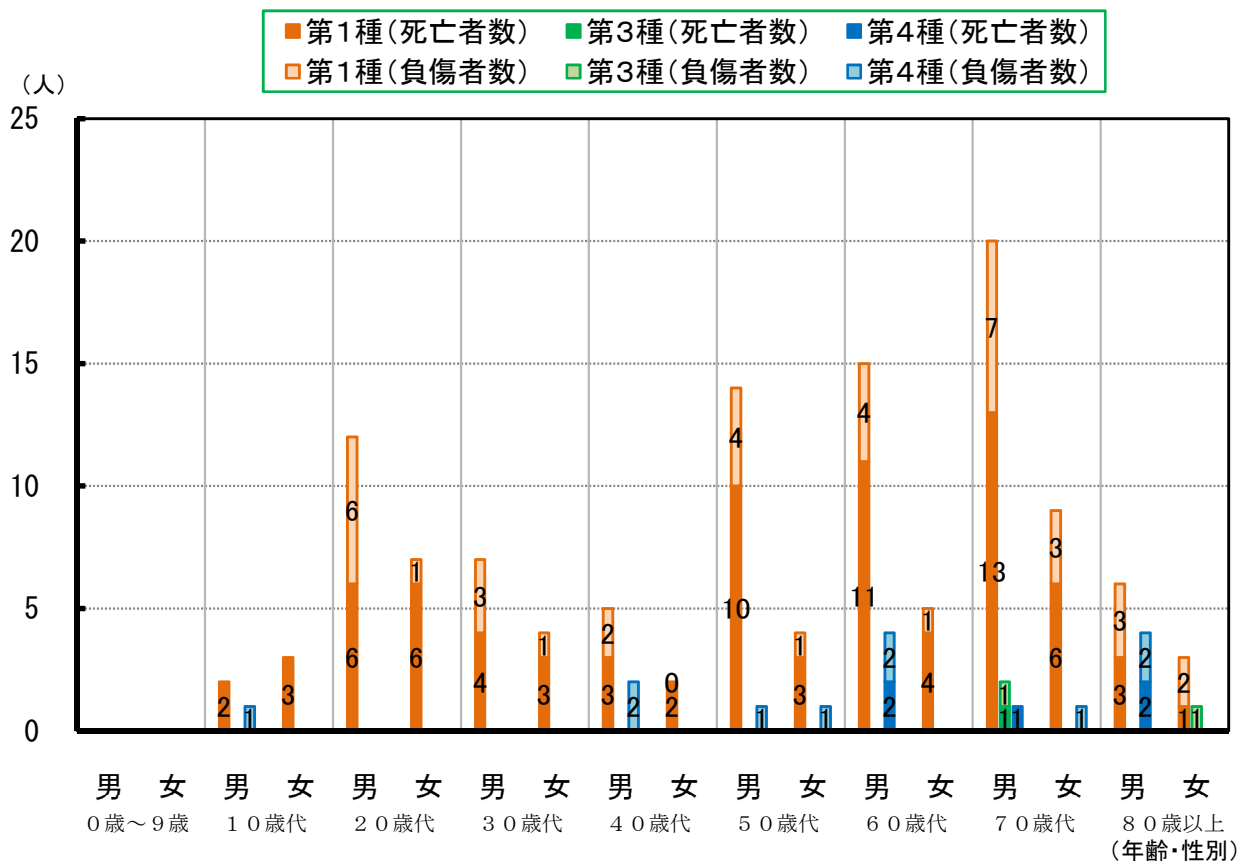
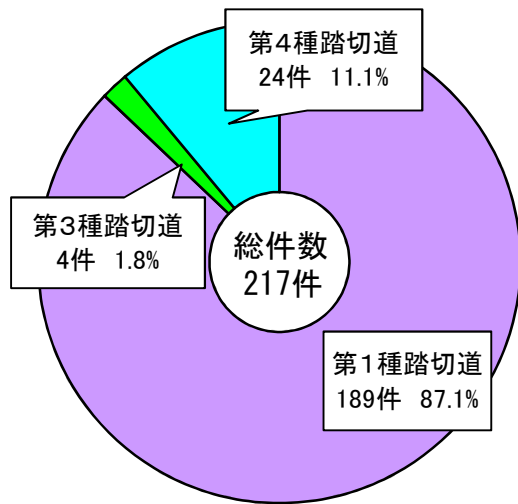


図11:踏切事故による死傷者数の年齢別人数(令和3年度)

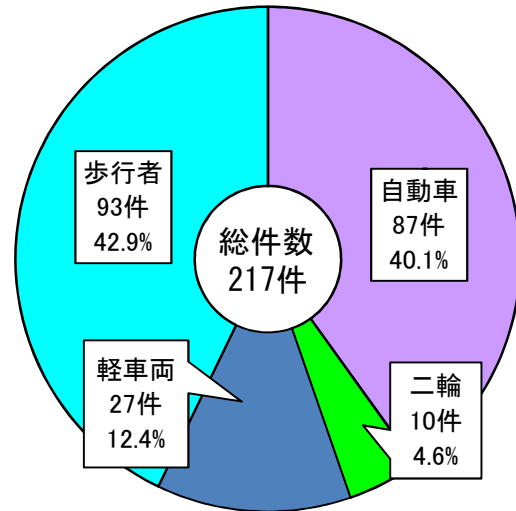
- ※ 自動車等の運転者、歩行者が列車と接触し、死傷した人数を計上しています(列車の乗客等を除く)。
- ※ 高齢者(65歳以上)が関わる踏切事故の内訳は、「第1種踏切道における死傷者数は46人、うち死亡者数は29人」、「第3種踏切道における死傷者数は3人、うち死亡者数は1人」、「第4種踏切道における死傷者数は9人、うち死亡者数は4人」です(年齢の把握ができなかった場合は、除く)。

## (2) 踏切種別別・衝撃物別及び原因別の踏切事故の件数

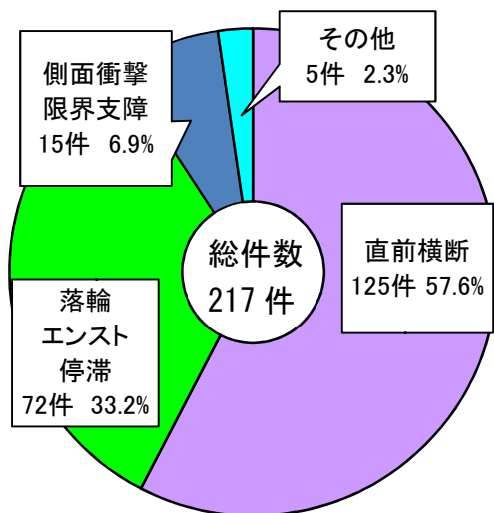
- ・令和3年度に発生した踏切事故の踏切種別別の内訳は、第1種踏切道189件(踏切事故に占める割合87.1%、対前年度比42件増)、第3種踏切道4件(同1.8%、同3件増)、第4種踏切道24件(同11.1%、同7件増)でした。
- ・衝撃物別の内訳は、自動車87件(踏切事故に占める割合40.1%、対前年度比25件増)、二輪10件(同4.6%、同4件増)、自転車などの軽車両27件(同12.4%、同10件増)、歩行者93件(同42.9%、同13件増)でした。
- ・原因別の内訳は、直前横断125件(踏切事故に占める割合57.6%、同37件増)、落輪・エンスト・停滞72件(同33.2%、同14件増)、側面衝撃・限界支障15件(同6.9%、同1件増)、その他5件(同2.3%、同増減無し)でした。



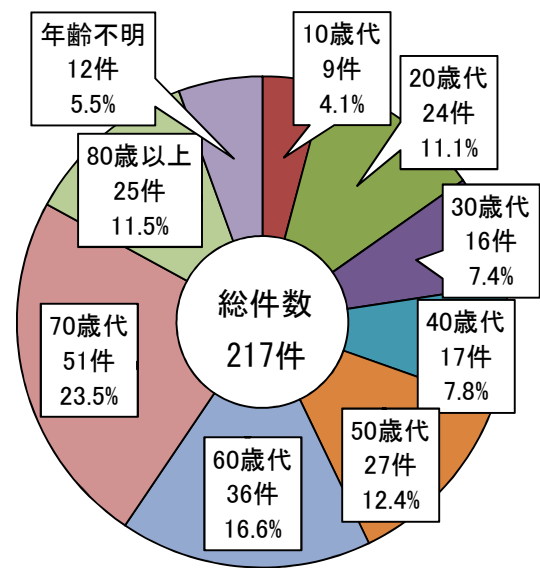
① 踏切種別



② 衝撃物別



③ 原因別



※高齢者(65歳以上)の件数は、90件

④ 関係者年齢別

図12: 踏切種別別、衝撃物別、原因別及び関係者年齢別の踏切事故

- 直前横断** : 踏切道において、列車又は車両(以下「列車等」という。)が接近しているにもかかわらず、踏切道を通行しようとする自動車、二輪・原動付自転車又は軽車両等(以下「自動車等」という。)若しくは人が、無理に又は不注意に踏切道内に進入したため列車等と衝突したもの
- 落輪・エンスト・停滞** : 自動車等が落輪、エンスト、交通渋滞、自動車の運転操作の誤り等により、踏切道から進退が不可能となったため列車等と衝突したもの
- 側面衝撃・限界支障** : 自動車等が通過中の列車等の側面に接触したもの及び人等が踏切道の手前で停止した位置が不適切であったために列車等と衝突したもの
- 関係者年齢** : 関係者年齢とは、歩行者等の年齢(自動車等にあつては、運転者の年齢)

## 2. 4 人身障害事故の発生状況

### (1) 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移等

- ・人身障害事故の件数は、減少傾向であり、令和3年度は、運転事故全体の50.9%に当たる276件(対前年度比7件減)でした。
- ・令和3年度に発生した人身障害事故のうち、身体障害者が関わる事故の件数は6件(人身障害事故に占める割合2.2%、対前年度比3件増)であり、視覚障害者が関わる事故は3件、下肢障害者が関わる事故は2件、聴覚障害者が関わる事故は1件でした。
- ・新幹線に関わる人身障害事故の件数は3件(人身障害事故に占める割合1.1%、対前年度比3件増)でした。
- ・なお、令和3年度に発生した人身障害事故による死傷者数は278人(運転事故に占める割合59.8%、対前年度比7人減)、うち死亡者数は166人(同63.4%、同5人増)でした。

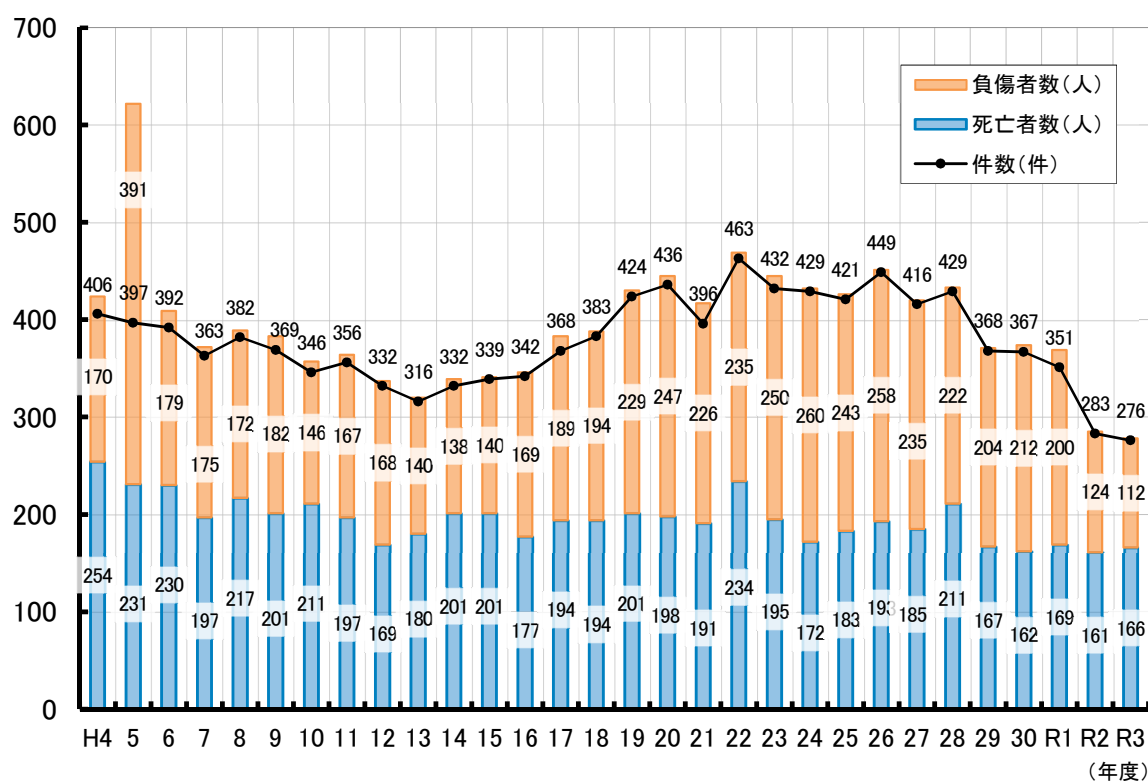


図13：人身障害事故の件数及び死傷者数の推移

## (2) 原因別の人身障害事故の件数等

・原因別の内訳は、次のとおりです。

- ①「公衆等が無断で線路内に立ち入る等により列車等と接触したもの(線路内立入り等での接触)」が194件(人身障害事故に占める割合70.3%、対前年度比13件増)であり、これによる死傷者数は194人(同69.8%、同11人増)、うち死亡者数は148人(同89.2%、同5人増)でした。
- ②「旅客がプラットホームから転落したことにより列車等と接触したもの(ホームから転落して接触)」が25件(同9.1%、同7件減)、これによる死傷者数は25人(同9.0%、同7人減)、うち死亡者数は10人(同6.0%、同5人減)でした。
- ③「プラットホーム上で列車等と接触したもの(ホーム上で接触)」が49件(同17.8%、同17件減)、これによる死傷者数は51人(同18.3%、同15人減)、うち死亡者数は4人(同2.4%、同2人増)でした。
- ④その他、設備の故障、鉄道係員の作業誤り等によるものは8件(人身障害事故に占める割合2.9%、対前年度比4件増)、これによる死傷者数は8人(同2.9%、同4人増)、うち死亡者数は4人(同2.4%、同3人増)でした。

・令和3年度に発生した人身障害事故のうち、身体障害者が関わる事故の原因別の内訳は、「公衆等が無断で線路内に立ち入る等により列車等と接触したもの(線路内立入り等での接触)」が2件、「プラットホーム上で列車等と接触したもの(ホーム上で接触)」が3件、「鉄道側の責任」が1件であり、これによる死傷者数は6人、うち死亡者数は2人でした。

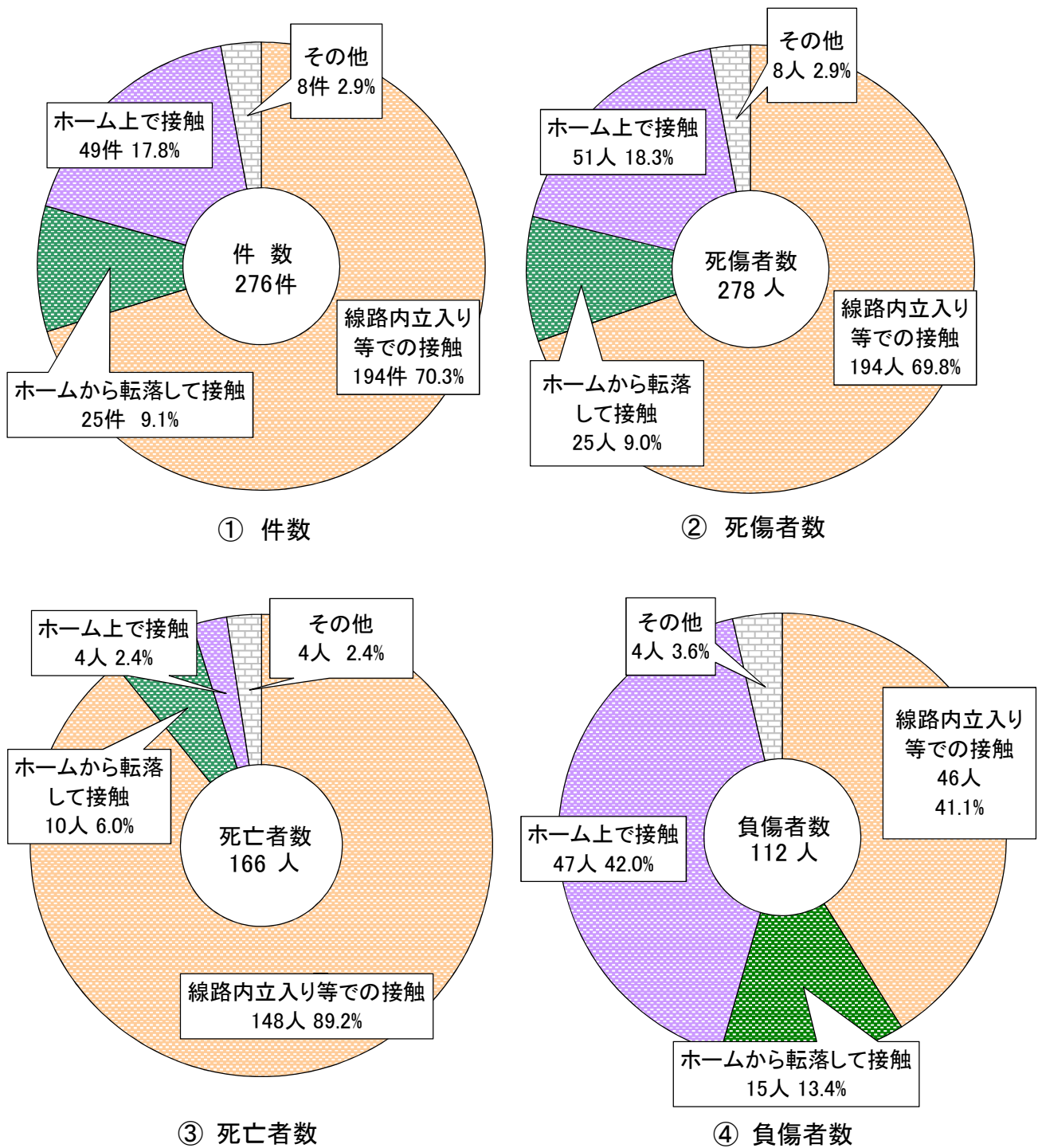


図14：人身障害事故の原因別の件数及び死傷者数(令和3年度)

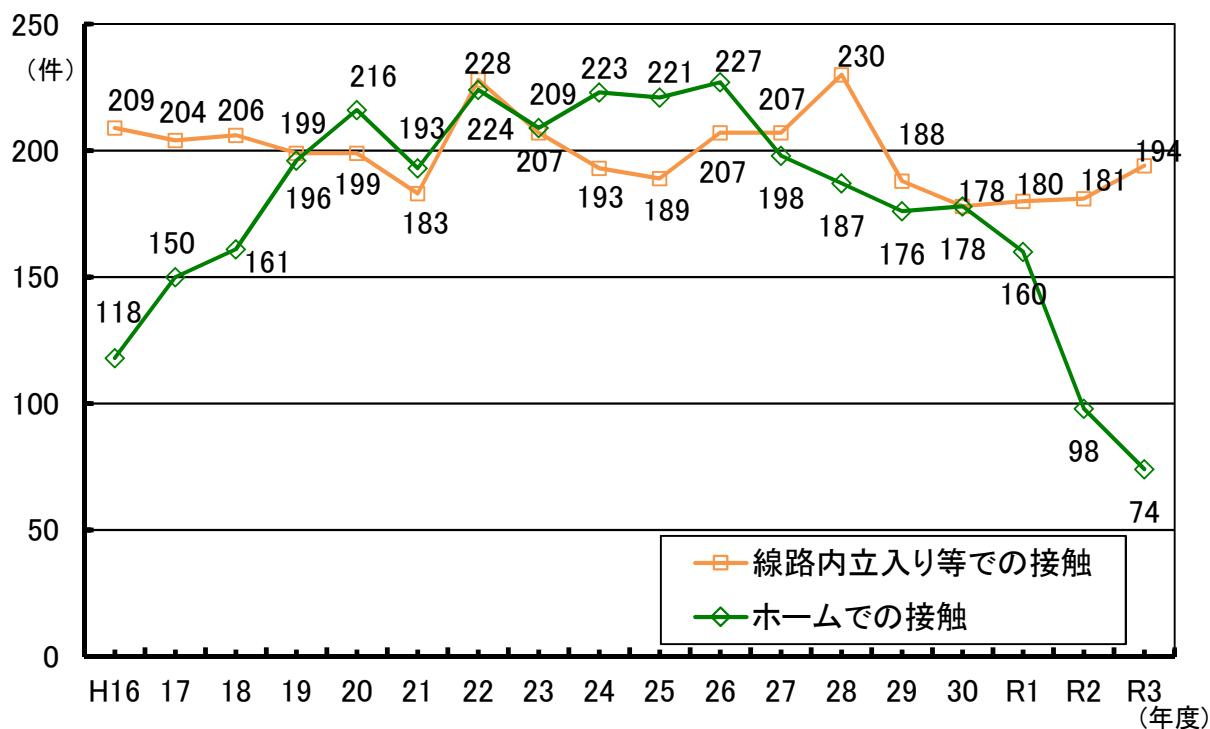


図15: 人身障害事故の原因別件数の推移の件数(令和3年度)

※ 「ホームでの接触」は、「ホームから転落して接触したもの」と「ホーム上で接触したもの」の合計です。

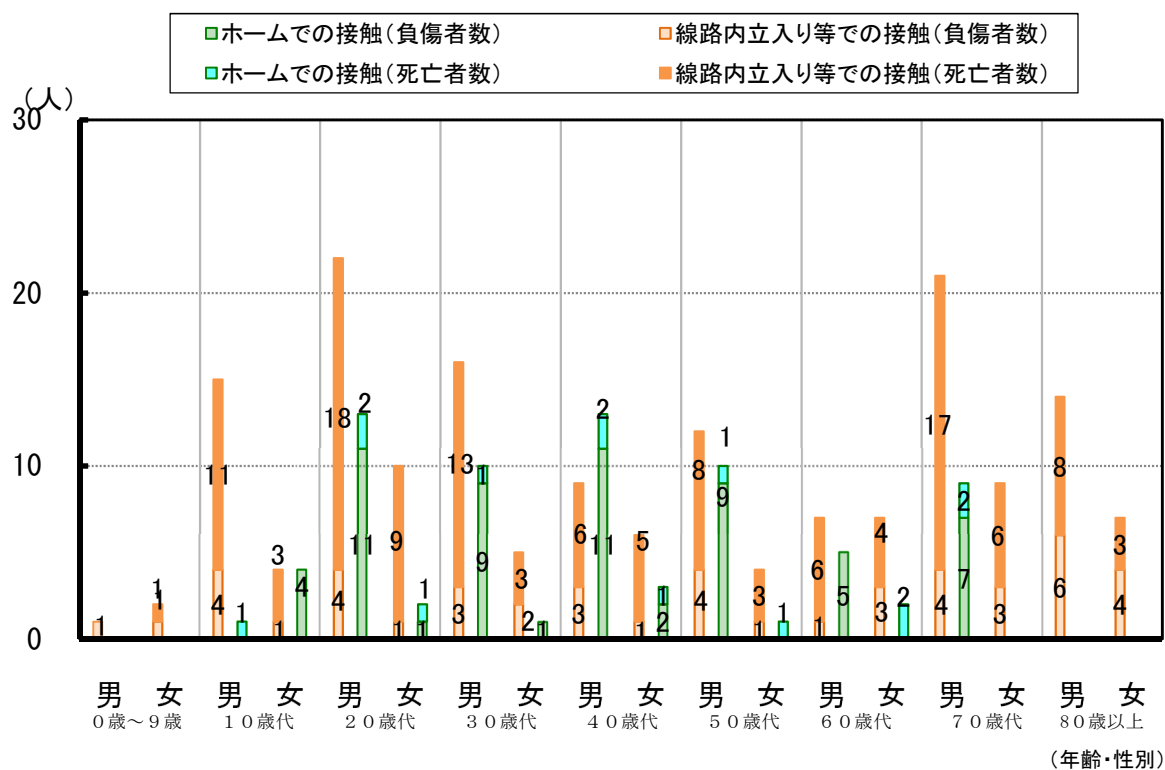


図16: 人身障害事故による死傷者数の年齢別人数(令和3年度)

※ 年齢の把握ができなかった場合は、除いています。

※ 高齢者(65歳以上)については、ホームでの接触による死傷者数は10人、うち死亡者数は2人、線路内立ち入り等での接触による死傷者数は53人、うち死亡者数は36人です。

### (3) 駅ホームからの転落に関する状況

・令和3年度におけるホームからの転落件数<sup>1</sup>は 1,429件で、このうち視覚障害のある人の件数は28件でした。また、人身障害事故<sup>2</sup>のうち、ホーム上での接触事故件数は49件で、このうち視覚障害のある人の件数は1件でした。ホームから転落後の接触事故の件数は25件で、このうち視覚障害のある人の件数は0件でした。

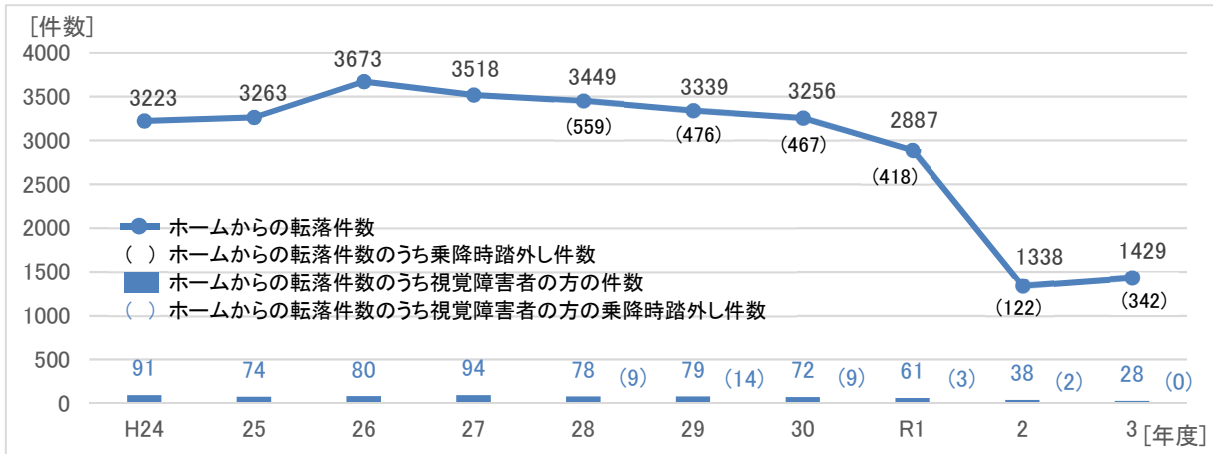


図17:ホームからの転落件数の推移(人身障害事故以外)

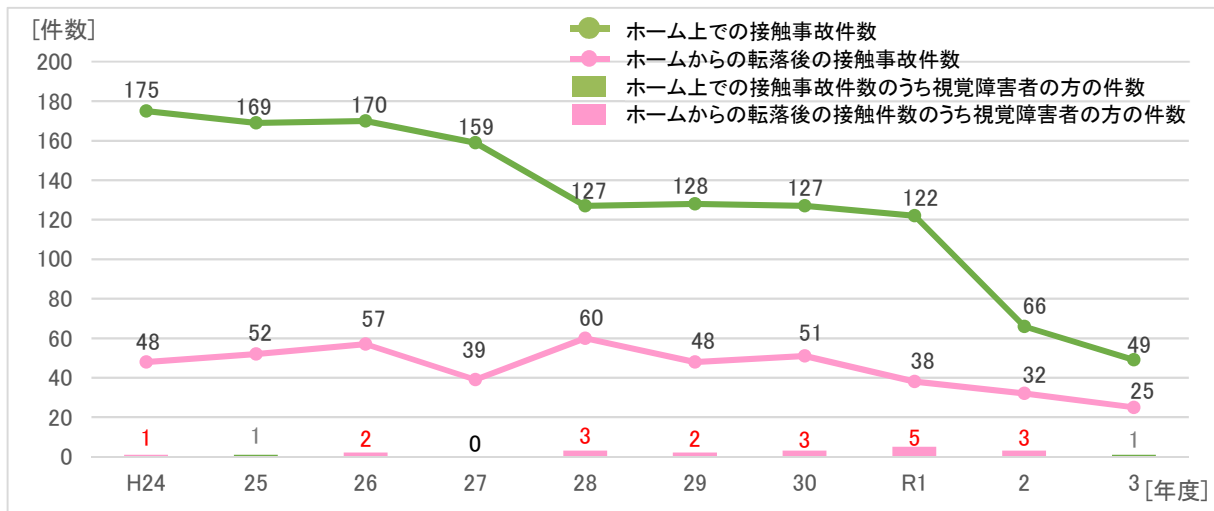


図18:ホーム上での接触事故件数

及びホーム転落後の接触事故件数の推移(人身障害事故になったもの)

- ※ ホームからの転落件数は、鉄軌道事業者が把握している件数である。
- ※ 自殺等故意に列車等に接触したものは含まれません。
- ※ 平成28年度から、乗降時踏外しにより、列車とホームの隙間に挟まったなどの事象も集計し、その値は、「ホームからの転落件数」及び「ホームからの転落件数のうち視覚障害者の方の件数」の内数として、それぞれ記載している。

<sup>1</sup> ホームからの転落件数は、ホームから転落したが列車等と接触せず、人身障害事故とはならなかった件数です(令和3年度公表分から人身事故件数を含む集計方法となりましたので、ご注意ください)。また、自殺等、故意にホームから線路に降りたものは含まれません。

<sup>2</sup> 人身障害事故は、列車又は車両の運転により人の死傷を生じた事故を指します。ただし、脱線事故や踏切障害事故等に伴うものを除きます。(鉄道事故等報告規則第3条第1項第六号)



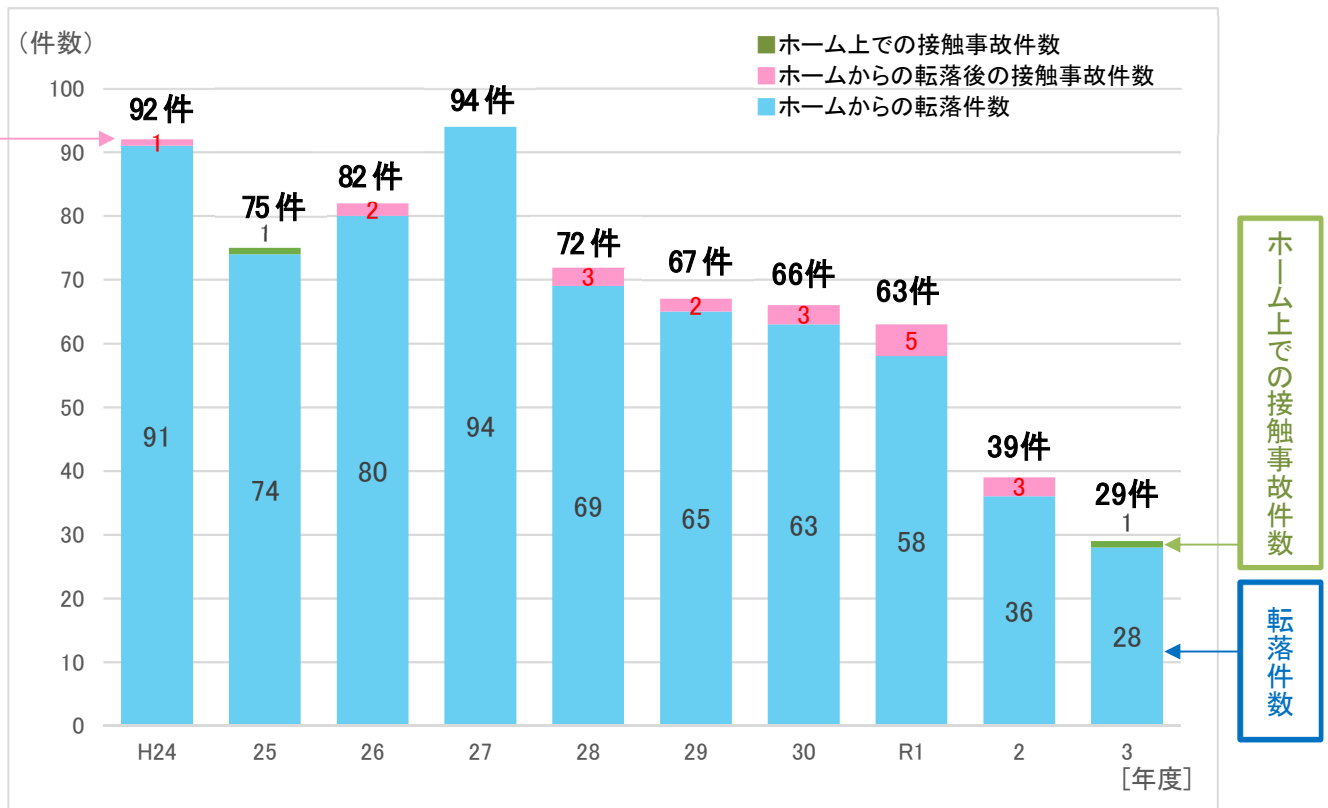


図19: 視覚障害者の転落及び接触事故件数の推移(過去10年)

※ 自殺等故意に列車等に接触したものを含まれておりません。

※ ホームからの転落件数は、プラットホームから転落したが、人身障害事故とはならなかった件数をいいます。

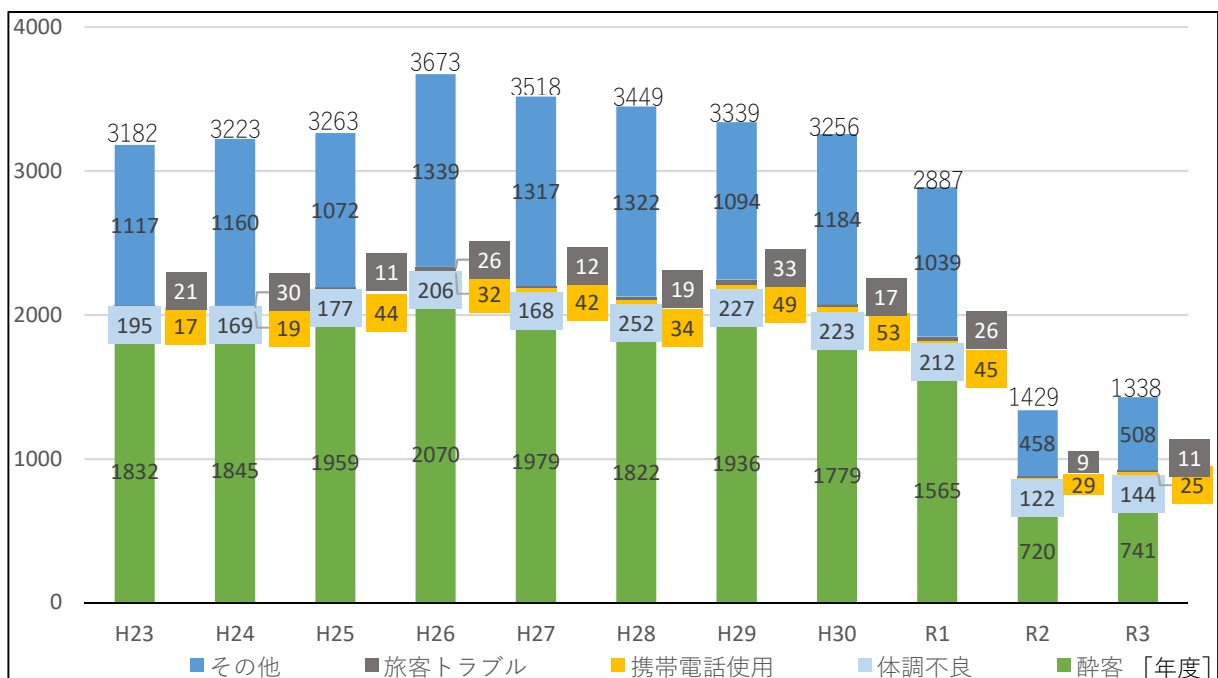


図20: ホームからの転落の要因別件数の推移

※ ホームからの転落要因は、鉄軌道事業者が把握している件数です。

※ 以下のものは、ホームからの転落の要因別件数に含まれておりません。

- ① 運転事故又は輸送障害として鉄道事故等報告規則又は軌道事故等報告規則に基づき報告されたもの
- ② 自殺等故意に線路に降りたもの